

月のうさぎ

月のうさぎ

(インドに伝わる話)

昔、ある山に、うさぎときつねとさるが、なかよくくらししていました。ある日、三びきの前に、つかれはてた一人の老人があらわれ、「何か食べ物をめぐんでくれないか。」とたのみました。

さるは木にのぼって、木の実を取ってきました。きつねは川へ行って、魚をとってきました。

ところが、うさぎは、あちこち走り回っても、何も見つけることができませんでした。

なやんだうさぎは、さるときつねにたき火をしてもらい、老人に言いました。

「わたしには、さし上げられる物が何もあります。どうか、わたしを食べてください。」そして、火の中に飛びこんだのです。

じつは、老人は、天の神様がすがたをかえたものでした。神様は、うさぎのやさしい心に感動し、そのすがたを月の中にうつして、いつまでも人々が見られるようにしました。

月に見えるうさぎのかけには、こんな話が伝えられているのです。

1 さるは、老人のために何を取ってきましたか。

2 老人の正体は、何でしたか。

ア 天の神様

イ 山の主

ウ さるのなかま

3 神様は、うさぎのすがたをどこにうつしましたか。

の中

4 神様が感動したのは、うさぎの何ですか。

ア 足の速さ

イ やさしい心

ウ かしこさ